佐久間　章先生

佐久間　章先生を送る

中　村　昭　之

私が九州大学文学部の心理学研究室に入ったのは昭和25年で，その時佐久間先生はちょうど助手をされていました。先生の助手の任期の最後の一年間をご一緒に過ごし，いろいろとご指導を賜りました。私が心理学研究室に入った昭

和25年は，ちょうど，まだ，先生のご尊父，佐久間　鼎教授が定年後一年間研究室におられましたので，お目にかかりお話する機会がありました。今考えると佐久間　鼎先生は，その時ようやく61才になられたばかりだったと思います。そうして最近の佐久間　章先生を見ていると，つくづく親子というものはこんなにもよく似るものかなと思うほど，ご尊父の佐久間　鼎先生に似て来られました。佐久間　鼎先生は昭和44年東洋大学学長を辞任され駒沢大学大学院心理学専攻の専任教授として赴任され，翌昭和45年逝去されております。親子二代にわたって駒沢大学教授になられるということは，私の知る限りにおいて前例の無い事だとおもいます。当時の九州大学の心理学研究室は，佐久間　鼎教授がベルリン大学の心理学研究室をそっくりモデルにして設計・建築されたもので，当時としてはまことに堂々たるものでした。その一階の入り口に事務室があり，その事務室は衝立によって二つに仕切られて，その奥が畳敷きになっていて，そこが学生やＯＢ連中の格好のたまり場になっておりました。そこでは，心理学の問題はもとより，政治，経済，文学，映画，その他ありとあらゆる話題に花が咲き，時には，白熱した議論の展開に時間の経つの忘れるほどでした。それは，形式ばった心理学の講義よりも。私にとっては，はるかに興味があり，胸を打つものでした。その時の常連にはいろいろな人がいたのですが，今でもよく覚えているのは，元阪大教授，三隅二不二氏や九大名誉教授，執行　嵐氏（社会学専攻）らでした。勿論，その集まりの中に，若き佐久間　章先生もおられた事は言うまでもありません。

先生のご尊父佐久間　鼎先生は，周知のように言語心理学者であり，ゲシュタルト心理学を日本に輸入しその普及に尽力された人でありますが，同時に禅心理学の研究者としても知られており，先生の「黙照体験の科学的考察」は，その独創的理論と同時に，その素晴らしい言語的筆致は読む度に新たな感銘をおぼえます。佐久間　章先生は，このご尊父の研究を継承されて，言語心理学（最近は認知心理学的アプローチが主流となっています）をその専門領域としておられますが，しかし，その研究方法も，その内容もご尊父のそれとはだいぶ異なっております。詳しい事は先生の最終講義の中にでてまいりますので差

し控えますが，私の感じからすれば，佐久間　章先生の方がより心理学的手法を用い，より心理学的であると考えます。先生は現在九州大学文学部同窓会長を務められ，また飲んで酔うほどに自慢のカラオケを披露されます。今後の先生のますますのご発展をお祈りします。

履　　歴

1922年　東京にて出生
1948年　九州大学法文学部哲学科卒業
同　年　九州大学法文学部副手
同　年　九州大学文学部助手
1951年　福岡学芸大学（小倉分校）講師
1952年　福岡学芸大学（福岡分校）講師
1960年　福岡学芸大学（福岡分校）助教授
1963年　九州大学助教授
1968年　九州大学教授
1986年　熊本工業大学教授
1989年　駒沢大学文学部教授

業　　績

著　書

1．児童心理学　1957年３月　第一評論社
2．教養の心理学　1965年６月　河島書店
3．人間行動の心理学的考察　1978年４月　アカデミア出版会
4．ことばの科学　1983年３月　九州大学出版会

論　文

1．意味の心理学的測定　1956　福岡学芸大学紀要　第６号　１－８．

2．ろう教育における言語指導ついての理論的検討　1960　ろう教育科学　№２．

3．性状語連想反応の種類別出現頻度による言語材料の尺度化の試み　1964　テオリア　第８号　１－39.

4．言語の知覚及び学習における文脈的拘束をめぐって　1966　テオリア　第10号　97－110.

5．人代名詞の社会心理学的考察　1967　言語科学　第３号　47－53.

6．言語の習得と文法　－連想における直列-並列移行をめぐって－　1968　テオリア　第11号　45－64.

7．意味とは何か　1969　テオリア　第12号　57－79.

8．言語音の知覚に関する研究の最近における動向　1973　心理学評論　16巻１号　59－82.

9．母音の知覚について　1975　音声学会会報　第151号　１－６．

10．言語音声受容のメカニズム　1975　「言語」　４巻10号　53－60.

11．言語音の知覚とその理論　1977　テオリア　第20号　１－31.

12．二分聴（Dichotic Listening）課題における人間の聴覚言語情報処理　－大脳半球非対称性とREA－　1980　第23号　１－19.

13．二分聴（Dichotic Listening）課題における人間の聴覚言語情報処理　－「遅延効果」と認知マスキング－　1982　テオリア　第25号　７－25.

14．二分聴言語音刺激の識別におけるラテラリティ効果　－耳の有利性と遅延効果－　1973　日本音響学会聴覚研究会資料　H－83－67.

15．認知マスキングと特徴共有効果　1974　日本音響学会聴覚研究会資料　H－84．55.

16．合成破裂音ＣＶ音節の知覚と選択的順応について　1985　日本音響学会研究資料　H－85－57.

17．言語音声の知覚における選択的順応について　1986　言語科学　第21号

57－74.

18. 談話の知覚　1988　日本音響学会誌　44巻３号　216－223.

19. 二分聴言語音刺激の識別におけるラテラリティ効果　1990　言語科学　第25号　126－147.

20. 瞑想に関する心理学的研究(3)　1992　駒澤社会学研究　No.24.

辞典項目執筆

1. 「語音明瞭度」「翻音」「リーダビリティ」「リーダビリティのテスト」　心理学小辞典　1978　有斐閣（東京）

2. 「環境」「言語の知覚」　新版心理学辞典　1981　平凡社（東京）

調査・報告等

1. ブランド・ロイヤルティとストア・ロヤルティ　1965－1966　九州広告研究会

2. 音声言語の理解と運用に関する総合的研究　1981　昭和53－55年度文部省科学研究費補助金（一般研究４　代表者　佐久間　章）による研究成果報告書

3. 言語音の知覚におけるラテラリティとマスキング効果（知覚的情報処理へのアプローチ）　1986　昭和59－64年度文部省科学研究費補助金　（一般研究Ｂ　代表者　佐久間　章）による研究成果報告書

翻　訳

1. 精神測定法（Guiford, G. P. PSYCHOMETRIC METHODS）　1959　培風館　（東京）

2. 音響音声学入門（Ladefoged, P. ELEMENTS OF ACOUSTIC PHONETICS）　1976　大修館書店（東京）

3. 聴覚障害と聴覚学習　－親と教師のために－（Whetnall, E. & Fry, D. B. LEARNING TO HEAR）　1977　新曜社（東京）

4．プランＴ行動の構造　ー心理サイバネティックス序説ー
(Miller, G.A. & Pribram, K. H. PLANS AND THE STRUCTURE OF BEHAVIOR)　１９８０　誠信書房（東京）